

社会福祉法人 北海道社会福祉協議会

北海道障がい者就労支援センター

就労支援業務事業評価書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和5年2月

指定法人事業評価委員会

■ 評価の基本的な考え方

指定法人事業評価委員会は、北海道障がい者及び障がい児の権利擁護並びに障がい者及び障がい児が暮らしやすい地域づくりの推進に関する条例(平成21年北海道条例第50号)第31条第8項の規定に基づき、社会福祉法人北海道社会福祉協議会(北海道障がい者就労支援センター)の令和3年度における障がい者就労支援業務の実績について、以下の基本的な考え方により評価を行った。

評価の実施に当たっては、北海道が示した、指定法人要求水準書に定めた事業ごとに、その実績を記載した就労支援業務事業報告書及び法人からの聴取を基に評価委員の全体協議により「項目別評価」及び「全体評価」を行う。

1 項目別評価

指定法人要求水準書に掲げる事業ごとに、令和3年度の事業計画の達成状況について、4段階により評価する。

A: 計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。

B: 計画に基づき適正に実施されている。

C: 計画に対し、やや不十分な内容である。

D: 計画に基づき実施されておらず、重大な改善事項がある。

※C及びD評価の場合は、指摘及び改善事項等について、意見を付すものとする。

2 全体評価

項目別評価の結果を踏まえて、令和3年度における事業実績の全体について、上記により4段階評価する。

■ 指定法人事業評価委員会委員

分野	所属・役職	氏名	備考
学識者	北海道医療大学看護福祉学部准教授	橋本 菊次郎	委員長
保健福祉	くしろ・ねむる障がい者就業・生活支援センター 長	高 谷 さふみ	委員
企業関係者	株式会社ほくでんアソシエ 代表取締役社長	茂 森 実	委員

■ 指定法人事業評価委員会開催(オンライン開催)

開催日 令和5年1月18日(水)

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>就労支援事業所における収益力の向上等を図るため、第5期北海道障がい福祉計画に基づき、授産事業の経営力向上や受注拡大等にに向けた支援の取組を行う。</p>	<p>関係機関との連携を図りながら、障害福祉サービス事業所のニーズに応えた指導、助言及び研修を実施し、事業所の経営改善や販路拡大に向けた取組を実施した。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>コロナ禍において、各種取組について工夫されて実施されているようですが、令和4年度、令和5年度もコロナ対応など社会情勢を踏まえ、引き続き着実に実施されることを期待している。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>I 工賃向上計画の策定・推進事業</p> <p>「工賃向上計画」策定事業等に対し、専門家等を派遣するなどし、経営相談・技術指導等を実施。</p> <p>■ 個別経営相談 経営の専門家である中小企業診断士により、各事業所が作成している「工賃向上計画」に基づいた個別経営相談を実施することにより、障害福祉サービス事業所における計画の適切な推進とそれによる工賃の向上を図る。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 障害福祉サービス事業所のニーズに対応した方法(地域、時期、内容等)で実施されること ★ 経営等に関し十分な知識を有するコンサルタントが選任されること ★ 相談内容や相談による効果等を公表し、他事業所の相談依頼に結びつけること ★ 相談後のフォローアップを通じ、相談件数の拡大に努めること 	<p>業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)</p> <p>■ 個別経営相談</p> <p>1 障がい者の就労等に精通した中小企業診断士による経営相談会の実施。 左記①～⑤については、以下のとおり 【個別経営相談(オンライン開催)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜ 1回目＞ ・ とき 令和4年3月24日(木) 相談事業所 3事業所 ＜ 2回目＞ ・ とき 令和4年3月28日(月) 相談事業所 2事業所 ・ 内容＜ 1回目、2回目共通＞ 中小企業診断士による「工賃向上計画」策定の推進、計画達成のための経営改善等の指導 ・アドバイザー＜ 1回目、2回目共通＞ 笹 洋彰氏(笹中小企業診断士事務所 代表・中小企業診断士) ※ 平成27年度より相談料無料。 ※ 個別相談概要をQA方式でHPに掲載した。 「個別経営相談会 こんな相談ありました！」 【個別経営相談(オンライン開催)の詳細は、別添資料1のとおり】 <p>2 経営コンサルタントの確保と活用。 【個別経営相談(派遣)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施方法 ※日々の相談から必要に応じてマッチング事業コーディネーター対応 ・ 対応者:大泉浩一(北海道障がい者就労支援センター マッチングコーディネーター・中小企業診断士) <p>【主な相談対応内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○菓子製造を行っている事業所より、菓子販売の販路拡大に向けたネットショップ立ち上げについて相談があり、ナイスハートネット北海道を活用した周知方法や新商品開発のための顧客アンケートの実施について助言を行った。 ○食堂を運営している事業所より、コロナ禍の影響による来店客減少に応じた食事メニューの改善について相談があり、価格設定の見直しやメニュー盛り付け写真の取り直しについて助言を行った。 <p>① 本会事業を理解し、個別経営相談等において実績のある中小企業診断士を選定し、個別経営相談(オンライン開催)を実施した。 対応者 笹 洋彰氏(笹中小企業診断士事務所 代表・中小企業診断士)</p> <p>② 中小企業診断士執筆の工賃向上に関するメールマガジン 「工賃向上ワンポイント」の配信を実施した。 ・執筆者 小松 康晴 氏(小松労務経営事務所 中小企業診断士・社会保険労務士) ・令和3年4月～令和4年3月55～58号を配信。(平成27年より通算)</p>	<p>B</p> <p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>オンラインによる個別経営相談を昨年度と同規模で実施するなど現下の状況に対応して適正に事業を実施した。フォローアップを通じ相談件数の拡大に努め、活動に結びついていることは評価する。 しかし、個別経営相談については、周知・募集期間を早めることにより、希望事業所が増加することも期待できるので、検討を期待する。</p>	

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>■ 経営・技術指導</p> <p>企業経営に関する基礎知識や製造技術等の専門技術等に関する講習等の実施により、障害福祉サービス事業所における企業経営的ノウハウの導入及び職員の資質の向上を図る。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 障害福祉サービス事業所のニーズに対応した方法(地域・時期・内容)で実施されること ★ 様々な製品又は役割に応じた技術指導がなされること ★ 企業経営的ノウハウの導入、職員の資質向上(営業力向上等)に向けた効果的な取組であること 	<p>■ 経営・技術指導</p> <p>1 社会就労センター施設長及び事業所経営セミナーの実施 (北海道社会就労センター協議会との共催)</p> <p>① 社会就労センター施設長及び事業所経営セミナー【社会就労センター施設長・職員研修会の実施】(動画配信)</p> <p>・ 配信期間 令和4年3月22日(火)～令和4年5月21日(土)</p> <p>・ 内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 動画1「障害保健福祉施策の動向について～障害者総合支援法の見直し～」 講師 諏訪林 智氏(厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課就労支援 係長) 2) 動画2「障害福祉サービス等報酬改定及び就労系障害福祉サービスの議論の状況について」 講師 阿由葉 寛氏(全国社会就労センター協議会 会長/社会福祉法人足利むつみ会 理事長) 3) 動画3「現場の業務改善事例から考える、働きやすい職場づくり」 講師 和久井 彰氏(株式会社日本経営 介護福祉コンサルティング部 主任) 4) 動画4「移動スバーで築き上げる地域との新たなコミュニケーション」 講師 竹由 誠氏(全国社会就労センター協議会 調査研究研修委員長/社会 <p>② 工賃向上に関する研修会 【利用者の工賃向上と就労支援を考える研修会の実施】 ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止</p> <p>2 工賃向上マニュアルのホームページへの掲載と周知 【工賃向上計画】策定・実現ノウハウ集をホームページで公開。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>オンラインによるセミナーを昨年度と同規模の参加者のもと実施するなど現下の状況に対応して適正に事業を実施したが、動画配信により実施された「社会就労センター施設長および職員研修会」については、受講後のアンケートの提出・回収について工夫、検討を期待する。</p>
<p>■ 障害福祉サービス事業に関するアイデア募集</p> <p>障害福祉サービス事業所職員や一般道民などから、障害福祉サービス事業に関するアイデアを募集し、その内容について実現の可能性等を検討するなどして、事業の改善や新たな取り組みにつなげる。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 募集は、適切な時期に様々な機会を利用し、広く周知を図ること ★ 寄せられたアイデアの分析・検討を行い、実現性のある取組については、効果的に活用されるものであること。 	<p>■ 障害福祉サービス事業に関するアイデア募集</p> <p>【ニーズ調査】 「障がい福祉事業所が製造するバンの新商品開発に関する調査」の実施 調査期間 令和4年2月18日(金)～2月27日(日) 調査方法 WEBモニター調査 調査対象 札幌圏及び道内主要都市圏を中心とするモニター会員300名 調査項目 バンの購入頻度・購入先・購入商品(種類)、障がい福祉商品の認知 新商品のアイデア 回答数 300件(回答率100%) 【調査結果は、別添資料2のとおり】</p>	<p>A</p>	<p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>詳細が把握できるアンケートの項目を設定したこと、モニター調査を実施して障がい福祉事業所におけるバンの新商品開発に有用な分析を行うとともに、それをパソコンソフト等に活用した事は評価できる。 今後は、このアンケート結果の活用方法と広く発信すること、具体的な活用について検討を期待する。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>■ 障害福祉サービス事業所間の連携・共同化</p> <p>障害福祉サービス事業所の販路の確保・拡大や新規事業の検討、事業改善を図るため複数の障害福祉サービス事業所間による連携・共同化に向けた授産事業所へのアドバイスや業務の調整等を実施。</p> <p>■ 障害福祉サービス事業所間連携・共同化の促進</p> <p>障害福祉サービス事業所間による事業の連携・共同化の促進を図るため、モデル事例の周知を図るとともに、連携・共同化に向けたアドバイス等を行う。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 十分な知識を有するアドバイザーが選任されること ★ 連携・共同化に向けた効果的な実施内容であること ★ 取組内容、成功事例は積極的に公開・周知すること ★ 地域のネットワークを活用した販路拡大がなされること ★ 複数事業所間の連携による商品開発を促進すること 	<p>■ 障害福祉サービス事業所間連携 共同化の促進</p> <p>1 実施内容・方法</p> <p>① 共同受注システムの啓発</p> <p>ナイスハート北海道の全国ネット化(日本セルプセンターと連携)を促進し、岐阜県、茨城県、熊本県が加入している。</p> <p>道内全未登録事業所に対し郵送で登録の依頼。全登録事業所に郵送でID、パスワードを再通知し、更新、商品登録を依頼した。</p> <p>② コーディネーター等による支援</p> <p>マッチング事業コーディネーター及び地域スタッフによるコーディネートを行った。</p> <p>【マッチング概要は、別添資料3のとおり】</p> <p>③ 展示販売会における出展事業所調整</p> <p>「ほっかいどうナイスハートフェアinアリオ札幌」等への出展について、道内各事業所への通知又は出展希望の取りまとめ、調整等を行った。</p> <p>【調整内容は、別添資料4のとおり】</p> <p>④ 障害福祉サービス事業所連携調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「HOYAエコプロジェクト」へのノベルティグッズ受注の調整を行い、17事業所20商品が採用された。 ・北海道内にあるセイコーマート1,079店舗に伴うレジ袋へのチラシ封入請負作業について、ナイスハート北海道登録事業所へ周知を行い、札幌市、石狩市、上川、空知、渡島、釧路、十勝管内にある9事業所が採用され、計1,079,000枚の封入作業を行った。 <p>⑤ 農業と福祉の連携を通じた工賃向上への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「近郊野菜コーナー」(イオン北海道)への農作物の商品提供 <ul style="list-style-type: none"> ●イオン手稲山王店 ・納品期間 令和3年4月～令和4年3月 ・事業所数 1事業所 ・主な農産物 生椎茸 ・納品状況 毎日納品 ●イオン栄町店 ・納品期間 令和3年7月～10月 ・事業所数 3事業所+2農園 ・主な農産物 季節の野菜 ・納品状況 週3回 <p>※7月は、週1回納品。8月～10月は、週3回納品。</p>	<p>A</p> <p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>登録数の増加や年間を通して活動実績が向上していることは評価できる。</p> <p>毎月の展示販売会の出展調整により昨年度を大きく上回る売上げに貢献するとともに、全道的な封入作業において臨機応変な事業所連携調整は評価できる。</p>	

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>Ⅲ 市場調査・商品開発事業</p> <p>魅力ある製品づくりと質の高いサービスの提供を行うため、市場調査及び商品開発に関する取組を実施。</p> <p>■ ニーズ調査及び商品評価 企業等のニーズ把握と商品評価により、授産事業所の商品力の向上を図る。</p> <p>【要求水準】</p> <p>★ 障害福祉サービス事業所の意向等を踏まえた効果的かつ効果的な取組であり、成果品(デザート)の有効活用が図られるものであること。</p> <p>★ アドバイス実施後の改善状況を広く周知し、多くの事業所に活用されるものであること</p> <p>■ 商品開発に関する研修 専門家による商品開発等に関する実践的アドバイスにより、授産事業所の商品・サービスの向上を図る。</p> <p>【要求水準】</p> <p>★ 障害福祉サービス事業所や市場ニーズを踏まえたテーマ等が設定されること</p> <p>★ 十分な知識を有する者を講師が選任されること</p>	<p>■ ニーズ調査及び商品評価 【(ニーズ調査)(再掲) 「障がい福祉事業所が製造するパンの新商品開発に関する調査」の実施 調査期間 令和4年2月18日(金)～2月27日(日) 調査方法 WEBモニター調査 調査対象 札幌圏及び道内主要都市圏を中心とするモニター会員300名 調査項目 パンの購入頻度・購入先・購入商品(種類)、障がい福祉商品の認知 新商品のアイディア 回答数 300件(回答率100%) 【調査結果は、別添資料2のとおり(再掲)】</p> <p>■ 商品開発等に関する研修 1 実施方法・内容 「複数事業所が連携した共同開発事業」の実施 ● 食品素材勉強会の実施(オンライン開催) ・ と き 令和4年2月17日(木) ・ 参加者 11名 ・ 内容 講義 「酵母と乳酸菌の話」～パン作りで活躍する微生物たち～ 講師 櫻井 博章氏(日本甜菜製糖株式会社総合研究所 上席研究員)</p> <p>● 個別レシピ相談の実施(オンライン開催) < 1回目 > ・ と き 令和4年2月18日(木) 参加者 1事業所 < 2回目 > ・ と き 令和4年2月21日(月) 参加者 1事業所 ・ 内容 < 1回目、2回目共通 > 食品素材勉強会を踏まえ、現在製造しているパンの課題、展望などのレシピ相談を講師から助言・アドバイスを受け、商品の改良を行う。 ・ 助言者 < 1回目、2回目共通 > 高柳 太志氏(日本甜菜製糖株式会社総合研究所 技術開発チーフ) 大泉 浩一(北海道障がい者就労支援センター マッチングコーディネーター)</p>	<p>B</p> <p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>モニター調査を行っているが商品評価についての具体的な取組が無いので、評価への取組、広い活用を希望する。</p>	
		<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>ノウハウを持つ企業とタイアップしてオンラインの勉強会や個別相談を実施し次年度のパンコンテストに繋げた点は評価できる。今後はパン以外の検討を期待する。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>IV マッチングサポート事業</p> <p>障害福祉サービス事業所の製品・サービスの受注拡大を図るため、障害福祉サービス事業所と企業等とのビジネスマッチングに関するサポートを行う。</p> <p>■ マッチング事業(共同受注システム)</p> <p>障害福祉サービス事業所の製品やサービスの取捨の確保・拡大を図るため、インターネット上で企業等が発注する仕事と障害福祉サービス事業所のマッチングの場を設けるとともに、専門コーディネーターによる受発注のコーディネートを行う。</p> <p>また、地域での複数事業所による原材料の共同仕入れや企業の発注ニーズに対する作業量及び作業工程の分担受注等の調整を行うほか、道の各部署等における障害福祉サービス事業所等からの優先調達の相談窓口として、適正な情報提供や助言を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同受注システムの運営 専門コーディネーター及び地域スタッフの配置 優先調達の推進 障害者就労施設等の製品、サービスのPR 事業の周知活動 <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 経営、マーケティング等に関し、十分な知識等を有するコーディネーターが配置されること ★ コーディネーター等により積極的に新規企業の開拓が図られるものであること ★ 利用者の利便性を考慮するとともに、アクセス数増が期待できる魅力ある専用ホームページ(共同受注システム)の構築・運営がなされること ★ 障害福祉サービス事業所の連携・共同化に向けた実現性のある取組であること ★ 共同受注システムへの障害福祉サービス事業所等の登録拡大に向けた実現性のある取組であること ★ 道の各部署等への情報提供は、定期的かつ活用されやすいものであること ★ マッチング事業及び障害福祉サービス事業所の製品・サービスの認知度向上が期待できる効果的かつ効果的な事業のPR方法であること 	<p>■ マッチング事業(共同受注システム)</p> <p>1 共同受注システム</p> <p>① ホームページの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 登録状況(令和4年3月末現在) <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報登録:1,085事業所(前年度比65件増) ・登録対象事業所数:1345件(登録率80.6%) ・商品登録事業所数:334事業所(前年度比1件増) ● 登録・更新の呼びかけ(全事業所に郵送にて依頼) ・道内全未登録事業所に対し郵送で登録の依頼。 ・全登録事業所にID・パスワードを再通知し、更新及び商品登録の依頼。 ● ホームページの更新・事例紹介・ページの充実 ● ナイスハートネット全国版及び都道府県版の拡充・拡大 ・平成28年3月に全国版ポータルサイトの更新を実施。 ・岐阜県、茨城県、熊本県が加入し、他県との連携が拡大した。 <p>【ナイスハートネットアクセス解析は、別添資料5のとおり】</p> <p>② 障害福祉サービス事業所間の連携調整(再掲)</p> <p>事業所間の連携調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「HOYAEIプロジェクト」へのノベルティグッズ受注の調整を行い、17事業所20商品が採用された。 ・北海道内にあるセイコーマート1,079店舗に伴うレジ袋へのチラシ封入請負作業について、ナイスハートネット北海道登録事業所へ周知を行い、札幌市、石狩、上川、空知、渡島、釧路、十勝管内にある9事業所が採用され、計1,079,000枚の封入作業を行った。 <p>2 専門コーディネーターの配置及び活動内容</p> <p>① 専門コーディネーターの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチング事業(H20.10～現在)コーディネーターで実績のある中小企業診断士を委嘱。 ・札幌に地域スタッフを配置。 <p>② 活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス事業所と企業とのマッチングコーディネーター ・企業及び事業所へマッチングシステムの紹介 ・受注に当たって、授産事業所へのアドバイス ・製品開発・改良へのアドバイス、専門家の紹介 ・マッチング実績 <p>令和3年度 商談成立166件(前年度比1件増) 【マッチングの概要は、別添資料3のとおり(再掲)】</p>	<p>A</p> <p>※計画に基づき適正に実施されており、特筆すべき内容である。</p> <p>専門コーディネーターの粘り強いマッチングにより増加傾向にある昨年の商談成立件数を更に上回る実績を上げた。地道に多岐にわたり活動、運営していると評価する。</p> <p>登録、連携調整ともに増加しており、引き続き、取り組んでいただきたい。</p> <p>HPのリニューアルについて検討を期待する。</p>	<p>意見等</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
	<p>3 優先調達の推進</p> <p>① 「ナイスハートネット北海道」による事業紹介及び製品の情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市町村向けメールマガジンの発行 <ul style="list-style-type: none"> ・ナイスハートネットの周知 ※道障がい者保健福祉課の協力を得て実施。 <p>② 市町村行政に対する管内障害福祉サービス事業所製品の情報提供 道内179市町村に対し、優先調達推進法を踏まえた普及・啓発を行った。</p> <p>4 障害者就労施設等の製品・サービスのPR</p> <p>① 障害者就労施設等製品販売会の開催</p> <p>【出展調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木育フェアinアリオ札幌 と き 令和3年7月28日(水)～30日(金) 出展数 3事業所(うち1事業所は展示参加) ・障がい者就労施設等製品展示会 と き 令和3年8月18日(水)～19日(木) 出展数 24事業所 ・福祉×産業パネル展 と き 令和3年12月21日(火)～22日(水) 出展数 福祉(事業所)12事業所 産業(企業)14社 <p>【商品提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●セイコーマートポイントカード交換用景品 2021年度(令和3年度)カタログに18事業所25アイテムが採用された。 ●北海道労働金庫(ろうきん)への商品調整 ろうきんウィンターキャンペーンに伴うプレゼントに1事業所1アイテムが採用された。 【2021年度のカタログ掲載商品は、別添資料6のとおり】 <p>② 「ナイスハートネット北海道」による製品紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・製品登録事業所数:334事業所 ・役務登録事業所数:282事業所 </p> <p>③ 広報誌による製品紹介 北海道社会福祉協議会広報誌「明るい社会」への掲載 季刊発行の1号～2号において、コーナー「きらきらマルシェ」を設け各号2事業所計4事業所の製品を紹介。 【誌面は、別添資料7のとおり】</p>		

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
	<p>5 事業の周知活動</p> <p>① ホームページによる事業の紹介及び製品の情報提供 【ホームページによる事業紹介】 センターホームページの運営・更新を行った。 更新回数23回(イベント周知、販路拡大に係るお知らせなど)</p> <p>② 企業、行政機関、社会福祉施設等へのパンフレット配布 【必要に応じた社会福祉関係会議における周知依頼】 ・ ナイスハートネット北海道パンフレットを配布 配布先: 研修会での配布、各事業所、関係団体、マッチング商談企業等への配布 ・ 北海道社会福祉協議会広報誌「明るい社会」への掲載(再掲) 季刊発行の1号～2号において、コーナー「きらきらマルシェ」を設け各号2事業所計4事業所お製品を紹介。</p> <p>③ イベント開催時のパネル展示 市町村向けメールマガジンの発行 ナイスハートネットの周知 ※道障がい者保健福祉課の協力を得て実施。(再掲)</p> <p>④ マスコミ等への情報提供 新型コロナウイルス感染症予防による北海道(札幌市)での緊急事態措置等及びまん延防止等重点措置 期間の延長により、北海道と協議した結果、マスコミ等への情報提供は控えた。</p> <p>⑤ 本会広報誌による周知活動。 ・ 北海道社会福祉協議会広報誌「明るい社会」への掲載(再掲) 季刊発行の1号～2号において、コーナー「きらきらマルシェ」を設け各号2事業所計4事業所の製品を紹介。</p> <p>⑥ 企業の発注、行政機関等の優先調達検討における製品等の情報提供。 ナイスハートネット北海道ホームページの周知及びパンフレットを配布した。</p> <p>⑦ 社会福祉関係者に会議、研修会等における事業、製品の周知。 商談にて、企業及び行政機関、農業団体へナイスハートネット紹介パンフレットを配布した。</p>		

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>■ 多様な販路の確保 授産事業所の製品やサービスの新たな販路の開拓等を図るため、経済団体や企業等が主催する商談会やイベント販売等への参加。 また、商談会等における商品提案力等の向上を図るための研修会等を実施する。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 出展授産事業所及び商品の選定は客観的で合理的な方法であること ★ スキルアップ研修は、授産事業所の現状及びニーズを踏まえた内容であること ★ 複数の企業(業種)との会議等を設定し、多くの事業所が参加できるものであること ★ イベント等への参加前後の事業所への支援(経営相談等)を実施すること ★ 商談会や販売会における参加事業者数の拡大方法について検討すること 	<p>■ 多様な販路の確保</p> <p>1 実施内容・方法</p> <p>① 企業等が行う各種催事における出展調整、商品調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とちぎ野酵母deチャレンジバンコンテストの出展調整 ・ 日本甜菜製糖株式会社が製造しているパン「酵母」[とちぎ野酵母]を使用したバンコンテストの出展調整を行った。本選は、主催者の都合により、令和4年4月に開催する。 主 催 日本甜菜製糖株式会社 後 援 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 応募数 8事業所 ・ FHOYAエコプロジェクトへのノベルティグッズ受注調整 6月、9月、12月納品分を17事業所20商品が採用された。 ・ 北海道労働金庫(ろうきん)への商品調整 ろうきんウインターキャンペーンに伴うプレゼン11事業所1アイテムが採用された。 ・ ノーフクオンラインマルシェの出展調整 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、集合でのノーフクマルシェ販売が難しいことから、ナイスハートネット北海道を京用し、オンラインによるマルシェの場を設ける。 出展数 10事業所 <p>② 「複数事業所が連携した共同開発事業」の実施(再掲)</p> <p>「加工食品共同開発研修会」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食品素材勉強会の実施(オンライン開催) ・ と き 令和4年2月17日(水) ・ 参加者 11名 ・ 内 容 講義 「酵母と乳酸菌の話」～パン作りで活躍する微生物たち～ 講師 櫻井 博章氏(日本甜菜製糖株式会社総合研究所 上席研究員) <p>● 個別レジンビ相談の実施(オンライン開催)</p> <p>< 1回目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ と き 令和4年2月18日(木) 参加者 1事業所 <p>< 2回目 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ と き 令和4年2月21日(月) 参加者 1事業所 内 容 <1回目、2回目共通> 食品素材勉強会を踏まえ、現在製造しているパンの課題、展望などのレジンビ相談を講師から助言・アドバイスを受け、商品の改良を行う。 ・ 助言者 <1回目、2回目共通> 高柳 太志氏(日本甜菜製糖株式会社総合研究所 技術開発チーフ) 大泉 浩一(北海道障がい者就労支援センター マツチングコーディネーター) 	<p>B</p> <p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>オンラインによるマルシェの場を設けるなど現下の状況に対応して適正に事業を実施した。今後もコロナ対応など社会情勢を踏まえ、引き続き着実に実施されることを期待する。</p>	

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>V アクション及び企業認証制度の普及・啓発事業</p> <p>企業等による障がい者就労支援に対する理解と取組を促進するため、「障がい者就労支援の輪を広げる取組～一人1アクション」(以下「アクション」という。)及び障がい者就労支援企業認証制度(以下「企業認証制度」という。)の普及・啓発を行う。</p> <p>■ アクション及び企業認証制度 アクション及び企業認証制度による登録件数拡大に向け、登録申請受付及び制度の普及・啓発活動を行う。</p> <p>【要求水準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 申請受付の適切・迅速な処理がなされる体制であること ★ 登録・認証企業の公表内容・手段等が効果的であること ★ 令和5年度末までに認証企業数213件の目標達成に向けた、効果的な制度のPR方法であること 	<p>■ アクション及び企業認証制度</p> <p>1 申請受付 本会を通して、アクション及び企業認証の申請をホームページにて受付を行ったが、申請なし。 アクション 2件 企業認証 75件 ※道障がい者保健福祉課への申請数</p> <p>① 地区事務所での受付 本部に加え地区事務所においても申請書の交付及び受付を行った。</p> <p>② マッチング事業コーナー、地域スタッフの普及啓発活動 企業訪問活動の際に普及・啓発活動を行った。</p> <p>2 登録・認証企業の公表 ホームページ等において公表・紹介をした。</p> <p>3 アクション・認証制度の広報 ホームページにおいて公表・紹介をした。</p>	<p>B</p>	<p>※計画に基づき、適正に実施されている</p> <p>道と連携し、引き続き、周知等の取り組みを期待する。</p>

実施項目及び要求水準	業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)	評価	意見等
<p>VI その他本事業の目的のために必要と思われる取り組み</p>	<p>業務の実績(令和3年4月～令和4年3月)</p> <p>1 各種助成事業との連携</p> <p>① 北海道新聞社会福祉振興基金との連携 ・ 小規模通所就労支援事業所器具整備等助成事業の周知、取りまとめ、その他事務作業を行った。</p> <p>申請事業所数 34事業所 助成申請総額 6,983,000円 助成決定事業所数 17事業所 助成決定総額 3,321,000円</p> <p>2 各事業の実施に関し関係機関との連携</p> <p>① 日本セルブセンターとの連携 ナイスハートネット全国版との連携 (加入都道府県:岐阜、茨城、熊本)</p> <p>② 北海道社会就労センター協議会との連携 各種研修事業等での連携</p> <p>③ 北海道障がい者就労支援推進委員会への参画 北海道障がい者就労支援センター所長が委員として参画</p> <p>④ 特定非営利法人さっせんへの参画 北海道障がい者就労支援センター所長が理事として参画</p>		